

2017年3月期

第1四半期決算説明会

ウシオ電機株式会社

2016年7月29日

＜免責事項＞本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

- I. **第1四半期業績概況**
- II. 今後の見通し
- III. 参考資料

今回の決算発表のポイント

**連結売上高、前年比2.8%減の399億円、
連結営業利益、前年比58.1%減の9億円となり、減収減益決算**

- 映像装置の急激な業績悪化に対し緊急対策を講じるものの、半期・通期での挽回は困難と判断し、業績予想を下方修正、新業績予想の必達を目指す-

売上高 : 399億円 (前年比▲11億円)

- ✓ 円高による▲31億円の減収が主な要因

営業利益 : 9億円 (前年比▲13億円)

- ✓ 円高による▲4億円の減益に加え、映像装置の収益性が悪化

親会社株主に帰属する

当期純利益 : 1億円 (前年比▲24億円)

- ✓ 「為替差損」及び前期は「固定資産売却益」「負ののれん」の特別利益計上

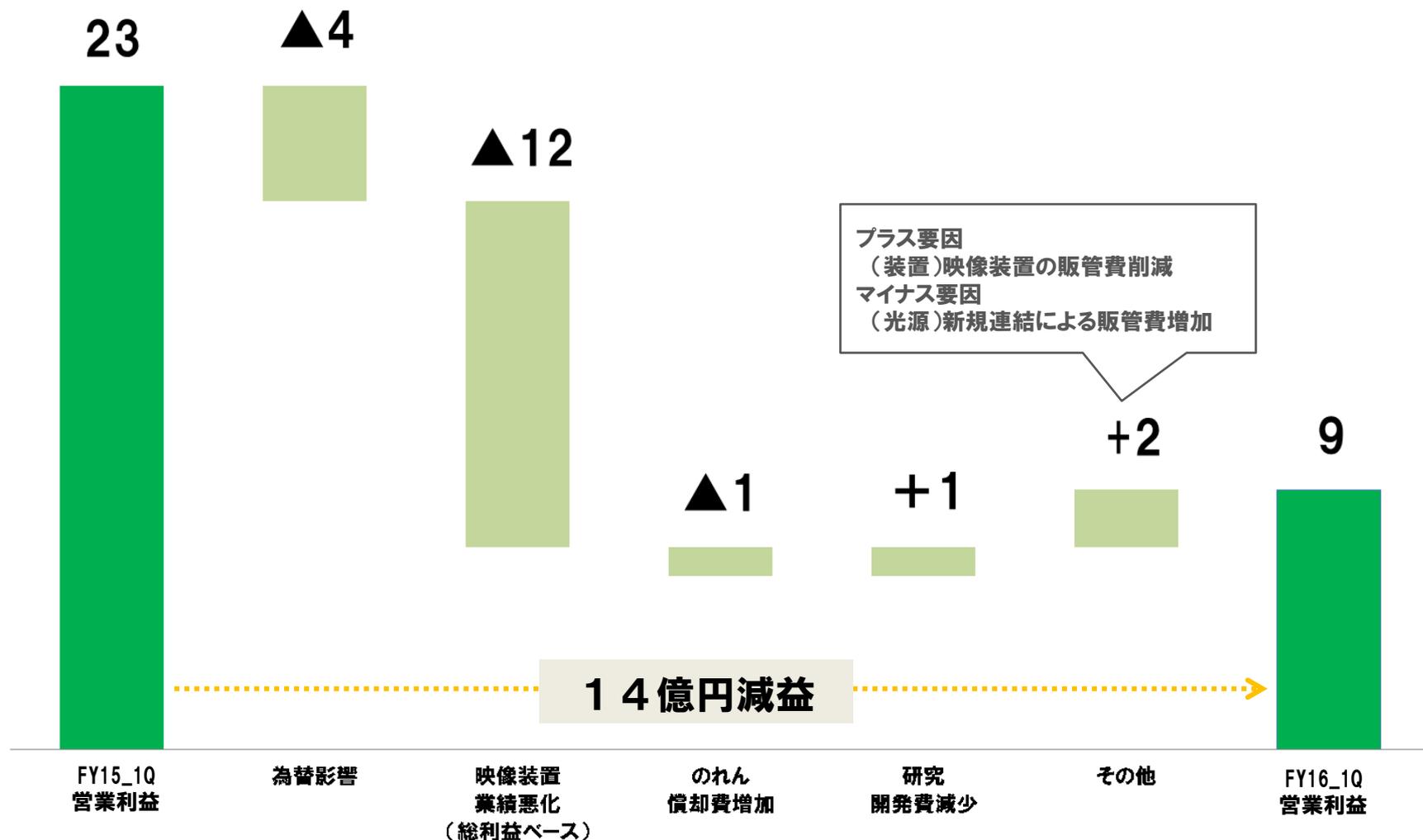
※為替レート(2016年度第1四半期) : 1ドル111円

2016年度1Q実績

(億円)	2015年度 1Q実績	2016年度 1Q実績	前年度比		修正前 上期公表値	進捗率 (%)
			増減	%		
売上高	411	399	▲11	▲2.8	900	44.3
営業利益	23	9	▲13	▲58.1	60	15.0
営業利益率 (%)	5.7	2.4	▲3.2P	-	6.7	-
経常利益	33	4	▲28	▲87.0	65	6.2
親会社株主に帰属 する当期純利益	26	1	▲24	▲93.9	47	2.1
EPS (円)	20.18	1.24	▲18.94	▲93.8	36.53	-
為替レート (円)						
USD	121	111	▲10	-	115	-
EUR	133	125	▲8	-	125	-

1 Q 対前期比 営業利益増減分析

(億円)



注：「映像装置業績悪化」～「その他」の要因は、為替影響を除いた金額。

映像装置事業 業績悪化の主な要因

要因① 市場環境の変化による競争激化により、単価の下落と在庫水準の見直しによる低価格販売等を実施したことから収益性が悪化

主な要因		「対応」と「業績影響」
シネマ	中小型タイプのプロジェクターが主流の中国市場において競合による低価格プロジェクターの販売拡大により競争激化	[対応] 販売価格を下げシェアを維持 [業績影響] 販売台数は増加するも、収益性悪化
一般映像	フラットパネルディスプレイ等のプロジェクション分野への浸透拡大によりローエンドからミドルレンジのプロジェクターの販売が低迷	[対応] 市場環境変化による将来需要見込みの低い在庫を調整 (低価格販売実施など) [業績影響] 低価格販売等により収益性悪化

要因② 仕入原価の増加（仕入時の為替変動等による影響）

◆ 業績改善策

リストラクチャリング実施による固定費削減

- 人件費削減（新規採用の凍結、人員削減、賞与減等）
- その他経費削減（IT経費、広告宣伝費等の削減等）

◆ 市場環境の変化への対応

①生産体制見直しによる生産コスト低減加速（前年比 10%以上の削減）

- カナダと中国の生産比率を6：4から5：5へ

②製品、地域、分野別にビジネスモデル見直しによる収益力強化

- 採算性の低い地域で販売代理店方式を導入し管理コストを削減など

③強みのハイエンドプロジェクター強化

- シネマ分野で優位性を維持するため、強みのハイエンド領域を強化
- ローエンドおよびミドルレンジ領域の在庫水準を見直したうえで、ラインナップを強化

④トータルソリューションビジネス拡大の着実な推進

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

	2015年 1Q実績	2016年 1Q実績	YoY		修正前 通期 計画値	進捗率 (%) (対上期公表値)	
			増減	%			
装置事業	売上高	212	212	▲0	▲0.1	1,115	19.0
	営業利益	▲1	▲7	▲5	-	-	-
	営業利益率 (%)	▲0.9	▲3.6	▲2.7P	-	-	-
光源事業	売上高	192	181	▲10	▲5.6	765	23.8
	営業利益	25	17	▲8	▲31.4	-	-
	営業利益率 (%)	13.2	9.6	▲3.6P	-	-	-
その他	売上高	6	5	▲0	▲9.8	20	29.3
	営業利益	▲0	▲0	+0	▲21.3	-	-
	営業利益率 (%)	▲3.8	▲3.3	+0.5P	-	-	-

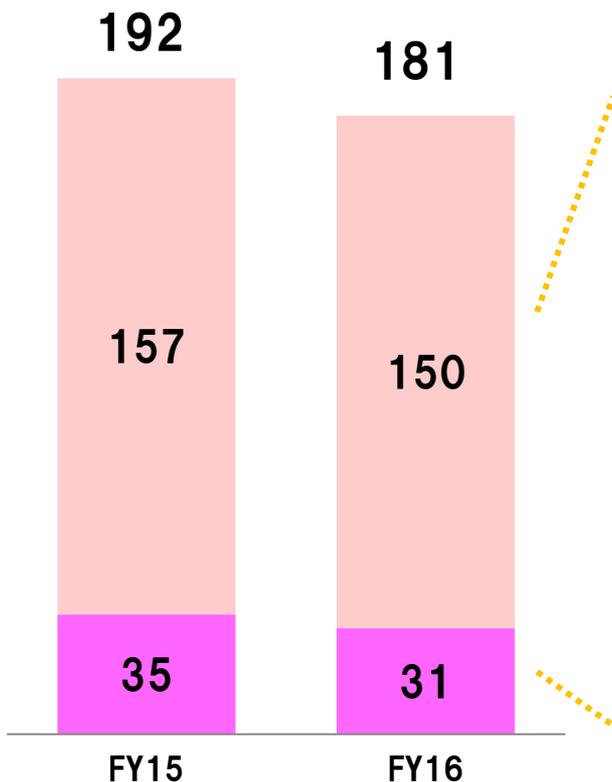
注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

光源事業セグメント概況（売上高）

《1Q前年比較》

売上高

(億円)



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

光源
事業
合計

売上高

181億円

前期比 ▲10億円
▲5.6%

1Qの概況

円高や競争激化の影響を受け、放電ランプの固体光源を除き、ほぼ全製品が減収。

150億円

前期比 ▲7億円
▲4.5%

✓ UVランプ: ▲5%。一部液晶FABで短時間交換されるも、半導体、電子部品は競合環境厳しく弱含み

✓ シネマ用ランプ: ▲9%。前期の反動減が継続

✓ データプロジェクター用ランプ: ほぼ横ばい。

31億円

前期比 ▲3億円
▲10.5%

✓ OA用: ▲10%。欧米での景気減速により減収

ハロゲン
ランプ

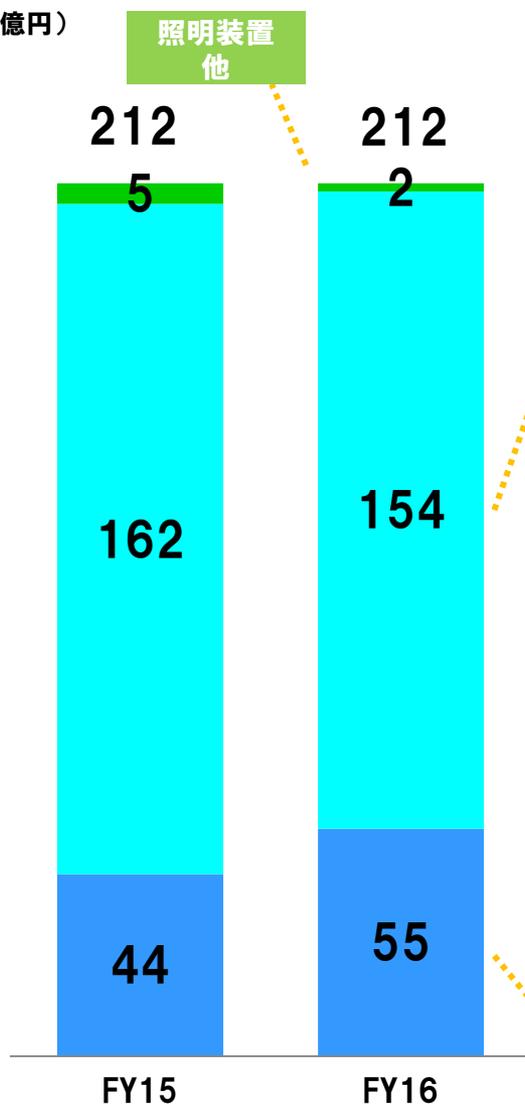
放電
ランプ

装置事業セグメント概況（売上高）

《1Q前年比較》

売上高

(億円)



装置事業合計

売上高

212億円

前期比 ▲0億円

▲0.1%

1Qの概況

光学装置が25%増収し、映像装置、照明装置の減収を補う

映像装置

154億円

前期比 ▲8億円

▲5.0%

✓ シネマ: DCPの販売は中国を中心に堅調、ドルビーシネマの導入も進み、増収

✓ 一般映像: フラットパネルや蛍光レーザータイプのプロジェクターの影響を受け減収

光学装置

55億円

前期比 +11億円

+25.2%

✓ UV装置: OLED向け洗浄装置の販売が増加

✓ キュア装置: 光配向装置、貼り合わせ装置が増収

注: 売上高は、外部顧客への売上高を記載

-
- I. 第1四半期業績概況
 - II. 今後の見通し
 - III. 参考資料

2016年度上期／通期新業績予想

為替影響および映像装置の業績悪化により5月11日公表の上期および通期業績予想を以下のとおり修正。なお、配当金は据え置き。

(億円) 上期	旧	新	差		(億円) 通期	旧	新	差	
			増減	%				増減	%
売上高	900	800	▲100	▲11.1	売上高	1,900	1,700	▲200	▲10.5
営業利益	60	25	▲35	▲58.3	営業利益	135	90	▲45	▲33.3
営業利益率(%)	6.7	3.1	▲3.6P	-	営業利益率(%)	7.1	5.3	▲1.8P	-
経常利益	65	25	▲40	▲61.5	経常利益	145	100	▲45	▲31.0
親会社株主に帰属 する 当期純利益	47	15	▲32	▲68.1	親会社株主に帰属 する 当期純利益	115	70	▲45	▲39.1
EPS (円)	36.53	11.72	▲24.81	-	EPS (円)	89.37	54.72	▲34.65	-

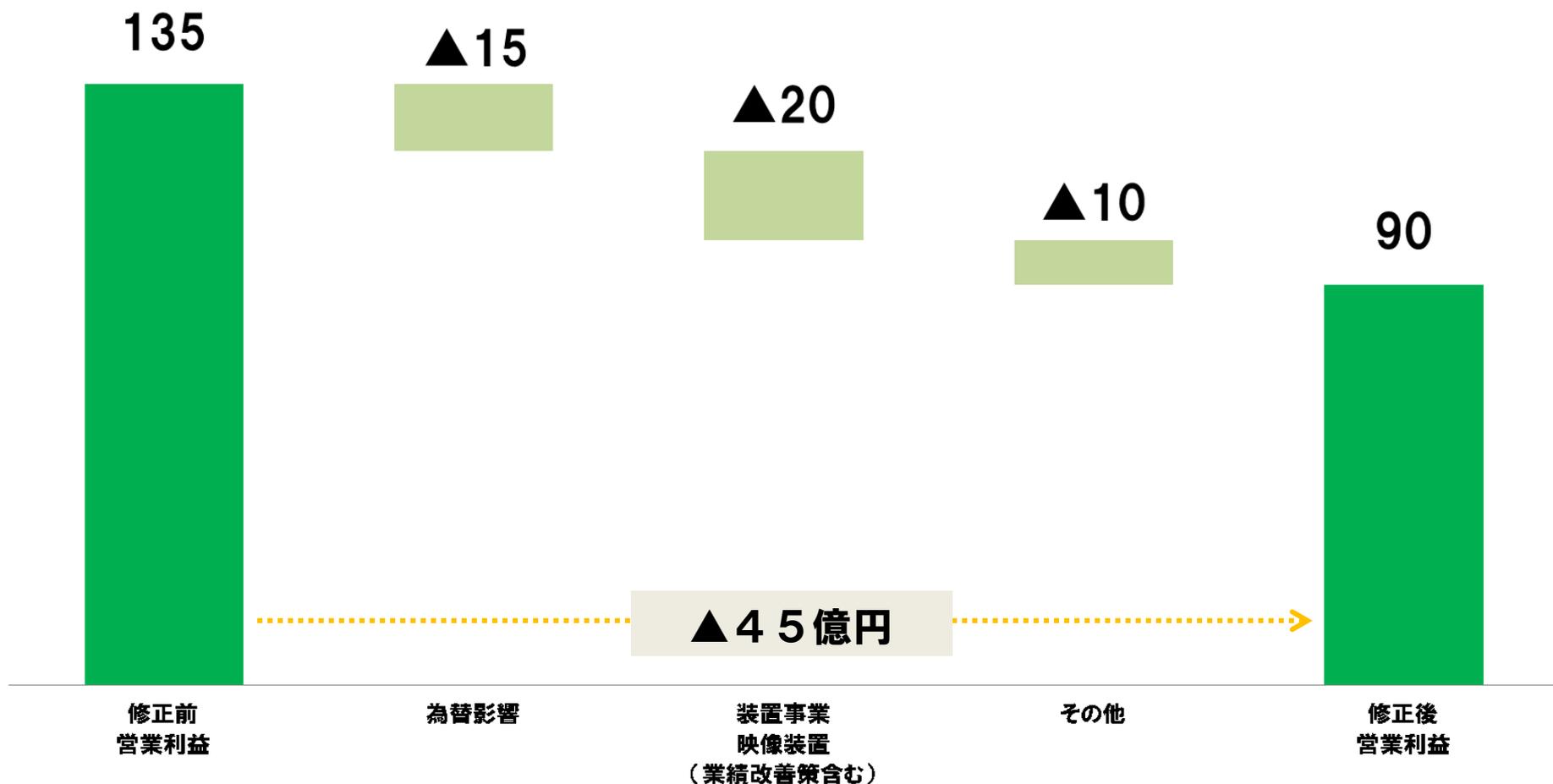
為替前提 レート(円)	旧	新	差
USD	115	105	▲10
EUR	125	115	▲10

為替感応度：1円変動による影響額（通期）

	売上高	営業利益
対 USD	約 10 億円	約 1.5 億円

2016年度通期業績予想－営業利益修正要因

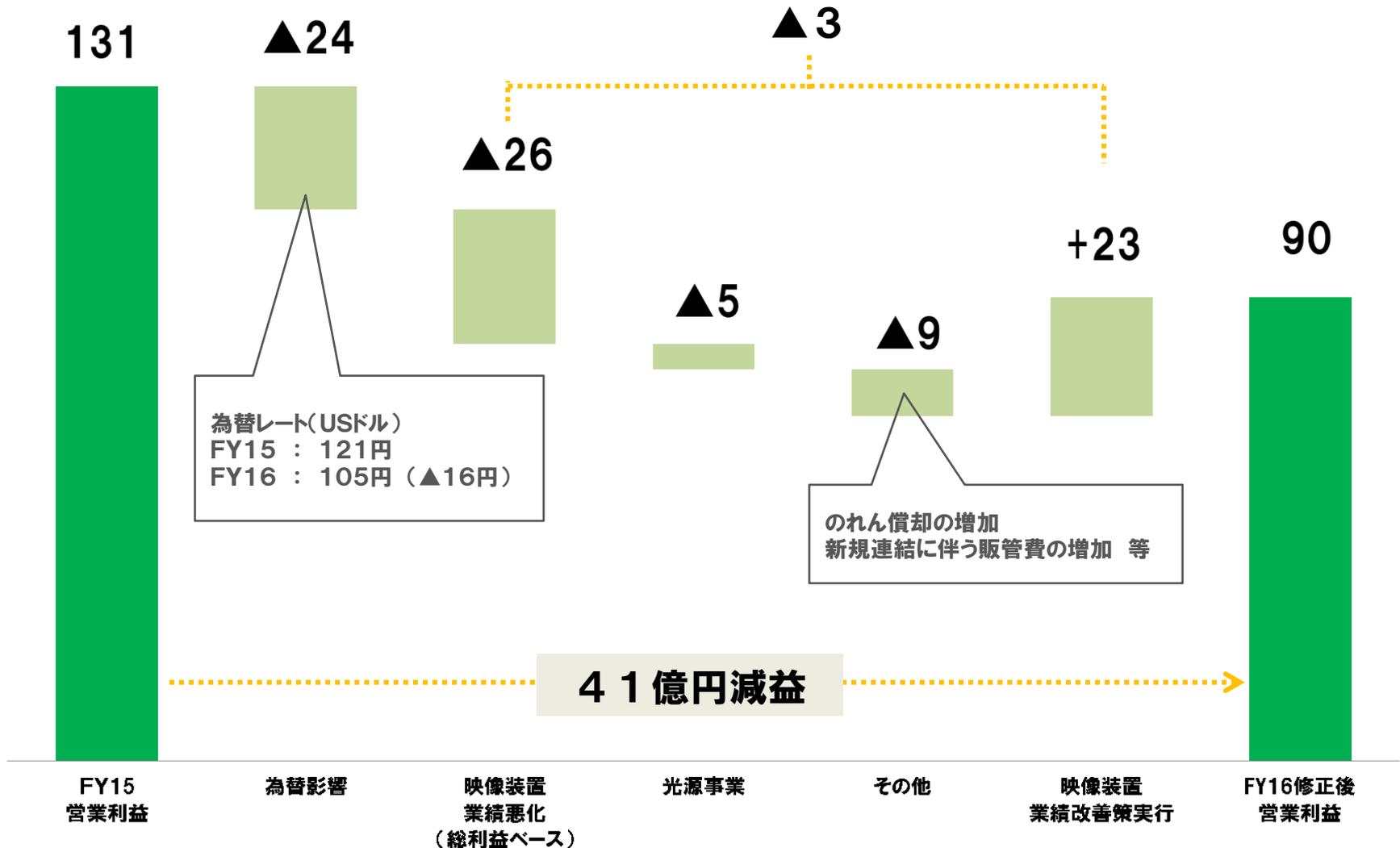
(億円)



注：「装置事業映像装置」～「その他」の要因は、為替影響を除いた金額。

2016年度通期業績予想－営業利益 対FY15差異

(億円)



注：「映像装置業績悪化」～「映像装置業績改善策実行」の要因は、為替影響を除いた金額。

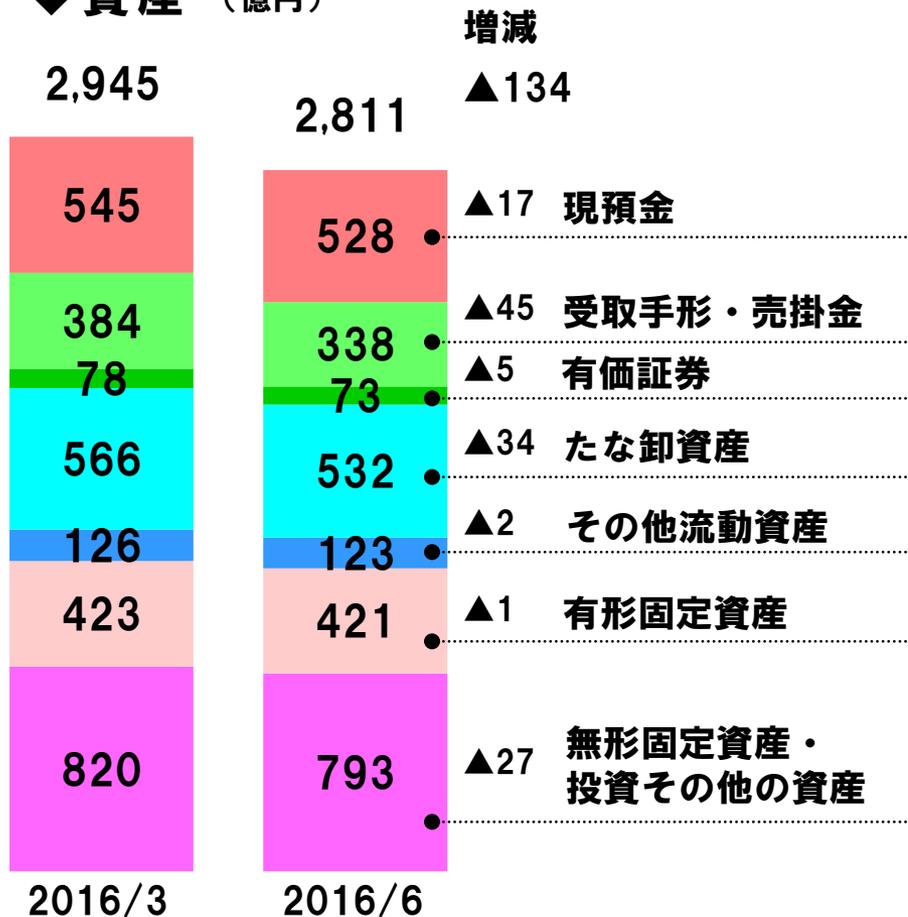
2016年度通期サブセグメント別業績予想

(億円)		旧	新	増減	修正の理由	
売上高	装置事業	映像装置	810	650	▲160	✓ 映像装置は、円高による為替影響に加え、競争激化による影響を反映
		光学装置	280	280	-	
		照明装置他	25	20	▲5	
		小計	1,115	950	▲165	
	光源事業	放電ランプ	635	610	▲25	✓ 円高による為替影響
		ハロゲンランプ	130	120	▲10	✓ 各市場における競争環境の激化による市場価格下落
		小計	765	730	▲35	
	その他	産業機械他	20	20	-	
	合計		1,900	1,700	▲200	
	営業利益		135	90	▲45	

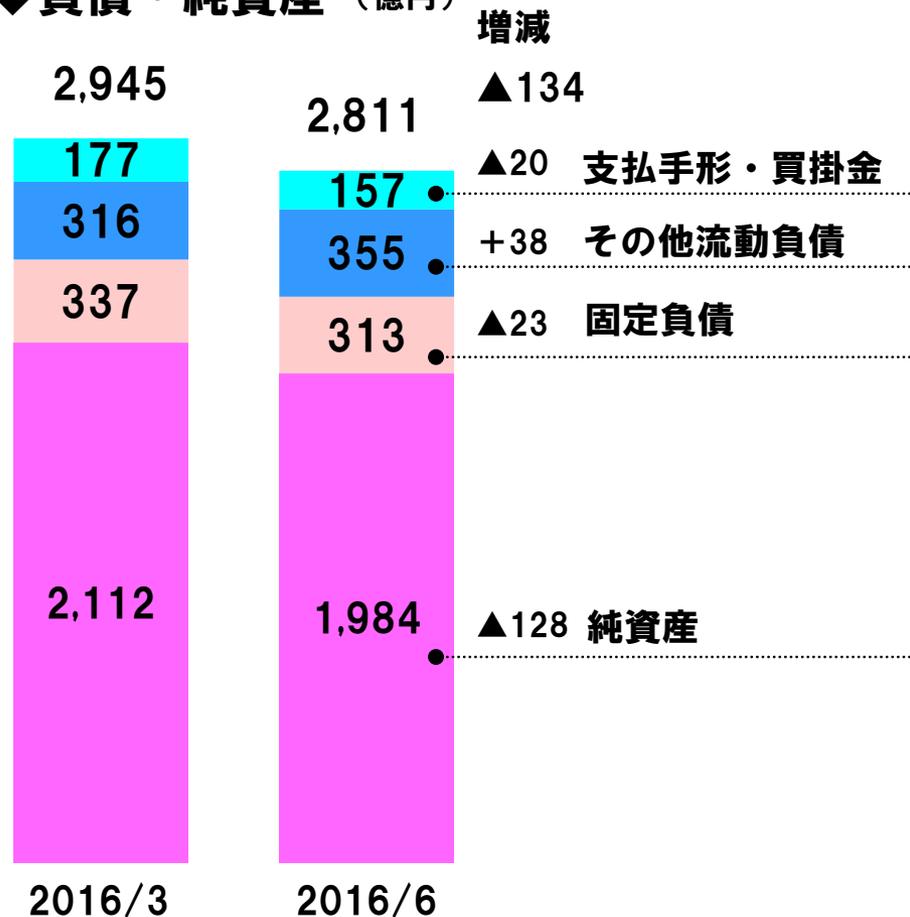
-
- I. 第1四半期業績概況
 - II. 今後の見通し
 - III. **参考資料**

参考 : BS

◆資産 (億円)



◆負債・純資産 (億円)



●回転月数 (ヶ月)

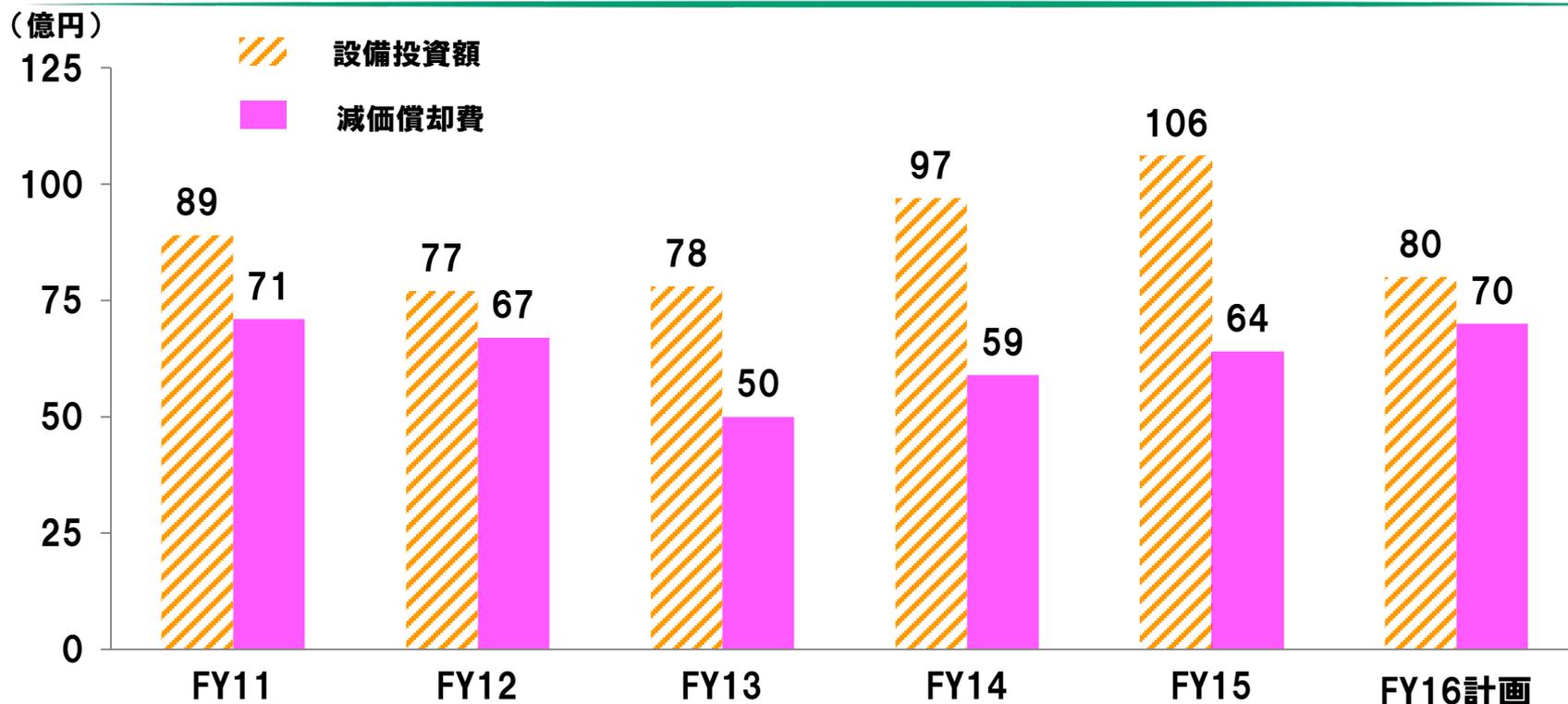
売上債権
たな卸資産

	2016/3	2016/6
売上債権	2.6	2.7
たな卸資産	3.8	4.1

●自己資本比率 (%)

	2016/3	2016/6
自己資本比率 (%)	70.9	69.8

参考：設備投資額・減価償却費

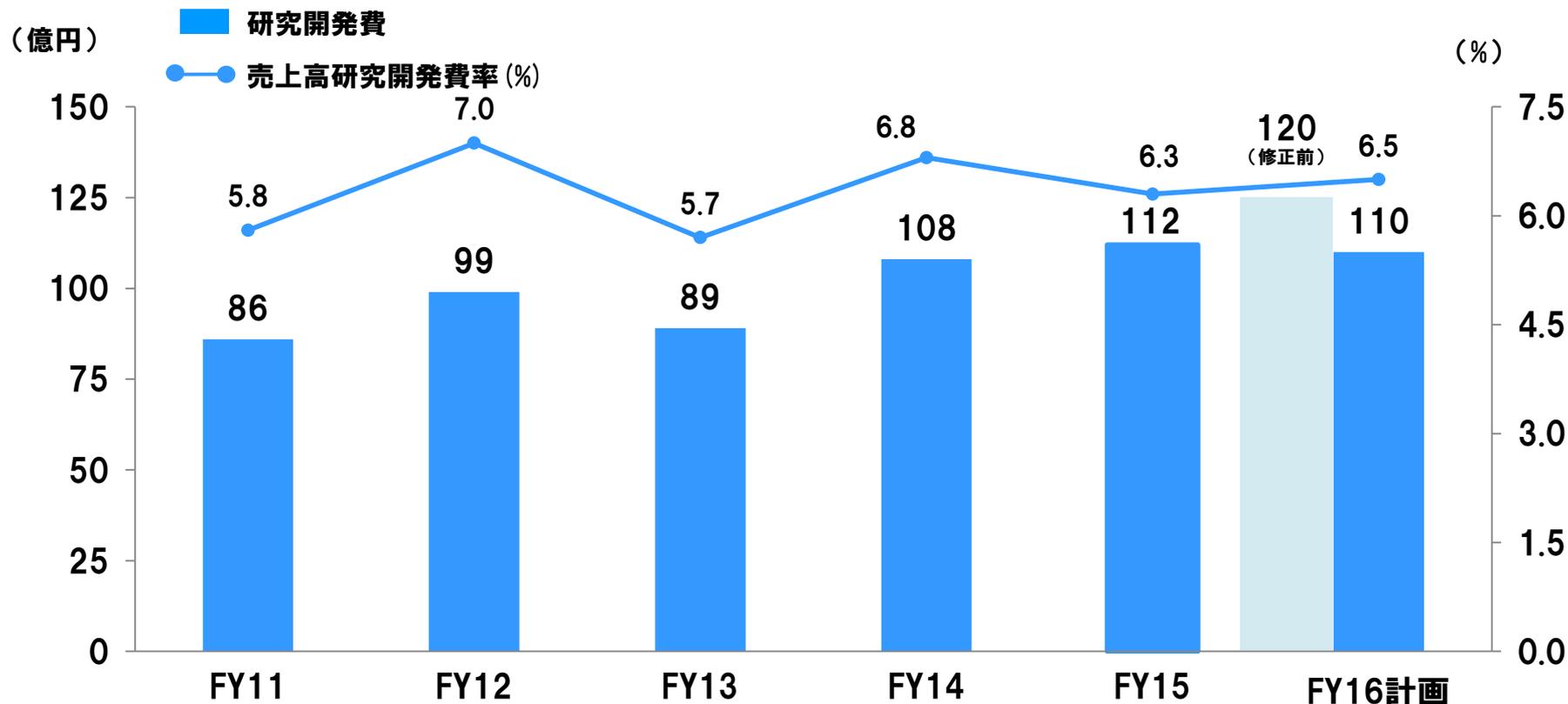


(億円)	2015年度 1Q実績	2016年度 1Q実績	前年度比	
			増減	%
設備投資額	19	24	+4	+22.7
減価償却費	15	16	+0	+4.3

注1. 設備投資額は「有形固定資産」+「無形固定資産」。ただし、「のれん」は除く。

注2. 設備投資額に含まれない「のれん」増加額 FY15_1Q、FY16_1Q 共に発生なし。

参考：研究開発費



(億円)	2015年度 1Q実績	2016年度 1Q実績	前年度比	
			増減	%
研究開発費	25	23	▲2	▲9.3
売上高研究 開発費率 (%)	6.3	5.9	▲0.4P	-

参考：1Q営業外収支、特別利益/特別損失

(億円)	FY15	FY16	YoY
営業外収益	10	8	▲2
受取配当金	5	6	+0
為替差益	1	0	▲1
その他	4	2	▲1
営業外費用	1	14	+12
為替差損	-	9	+9
その他	1	4	+3
営業外収支	9	▲5	▲15

(億円)	FY15	FY16	YoY
特別利益	16	1	▲15
固定資産売却益	10	0	▲10
関係会社清算益	0	1	+1
負ののれん発生益	5	0	▲5
その他	0	0	▲0
特別損失	▲0	▲1	▲1
移転費用	-	▲1	▲1
その他	▲0	▲0	▲0

参考：直前四半期比較

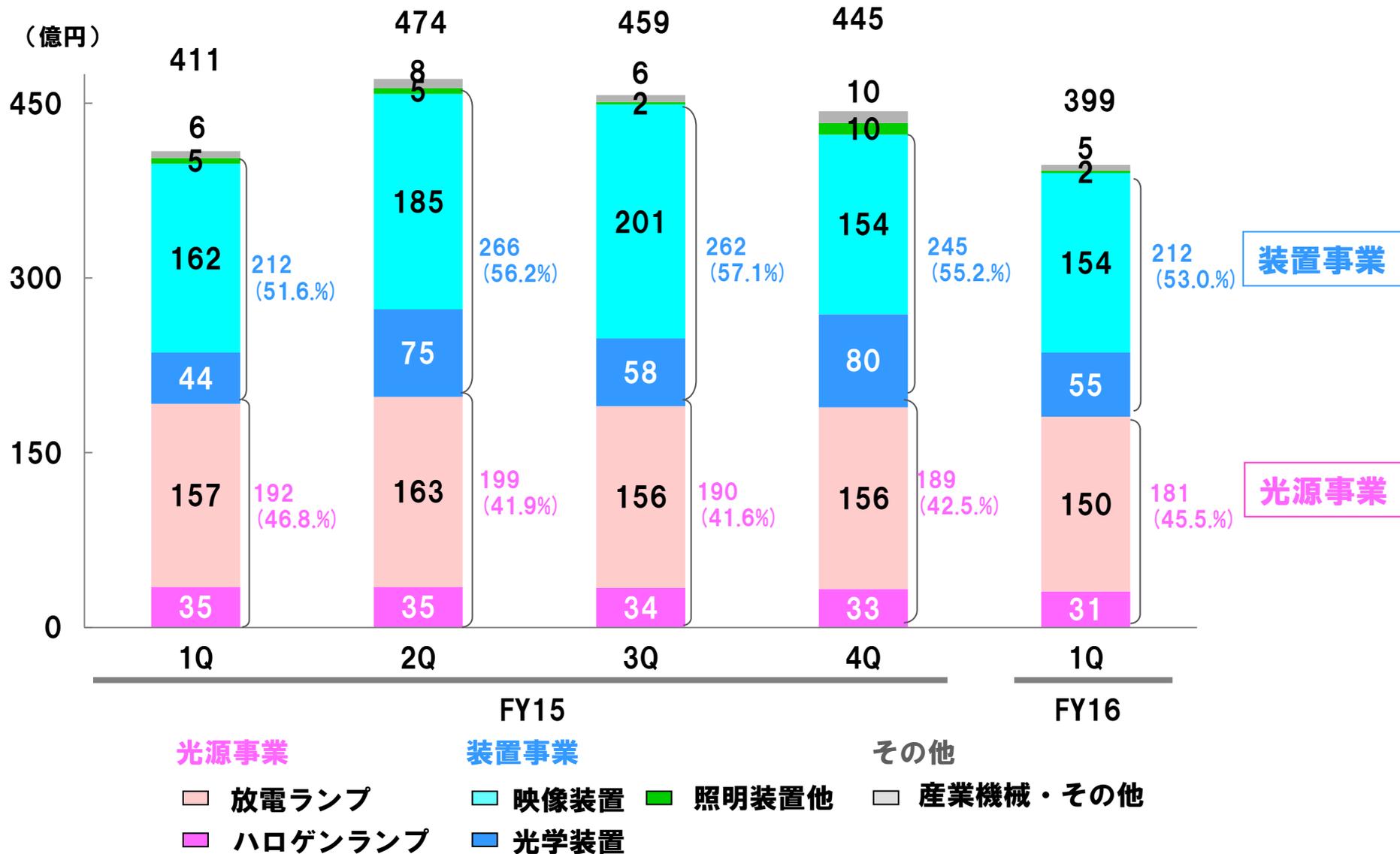
《四半期損益比較》

(億円)	FY15	FY16	QoQ	
	4Q	1Q	増減	%
売上高	445	399	▲45	▲10.3
営業利益	26	9	▲16	▲62.6
営業利益率 (%)	5.9	2.4	▲3.4P	-
経常利益	15	4	▲11	▲72.2
親会社株主に 帰属する 当期純利益	15	1	▲13	▲89.7
EPS (円)	11.98	1.24	▲10.7	▲89.6
為替レート (円)				
USD	118	111	▲7	
EUR	129	125	▲4	

《セグメント別比較》

(億円)	セグメント	FY15	FY16	QoQ	
		4Q	1Q	増減	%
装置事業					
	売上高	245	212	▲33	▲13.8
	営業利益	0	▲7	▲8	-
	営業利益率 (%)	0.3	▲3.6	▲3.9P	-
光源事業					
	売上高	189	181	▲7	▲4.0
	営業利益	22	17	▲5	▲23.0
	営業利益率 (%)	12.0	9.6	▲2.4P	-
その他					
	売上高	10	5	▲4	▲42.5
	営業利益	1	0	▲1	-
	営業利益率 (%)	12.8	▲3.3	▲16.1P	-

参考：サブセグメント別売上高



参考：地域別売上高比率《1Q》

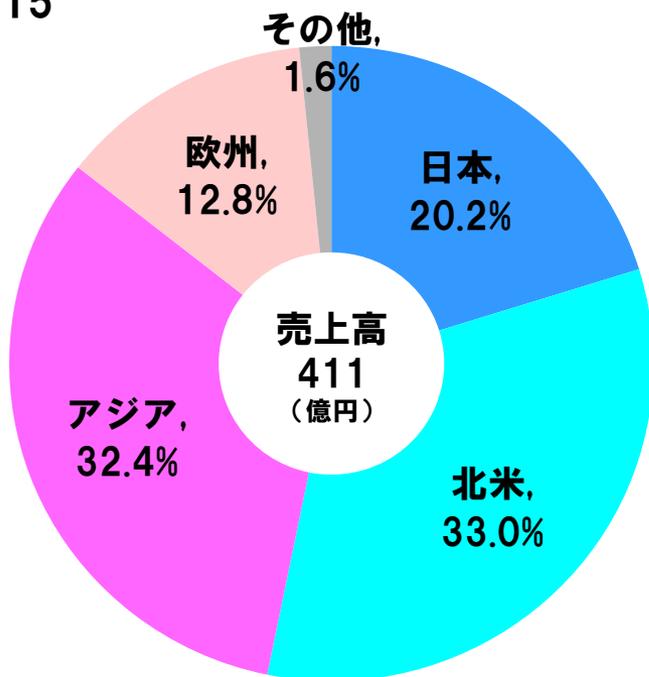
[北米・欧州]

円高による影響及び映像装置の販売減により減少

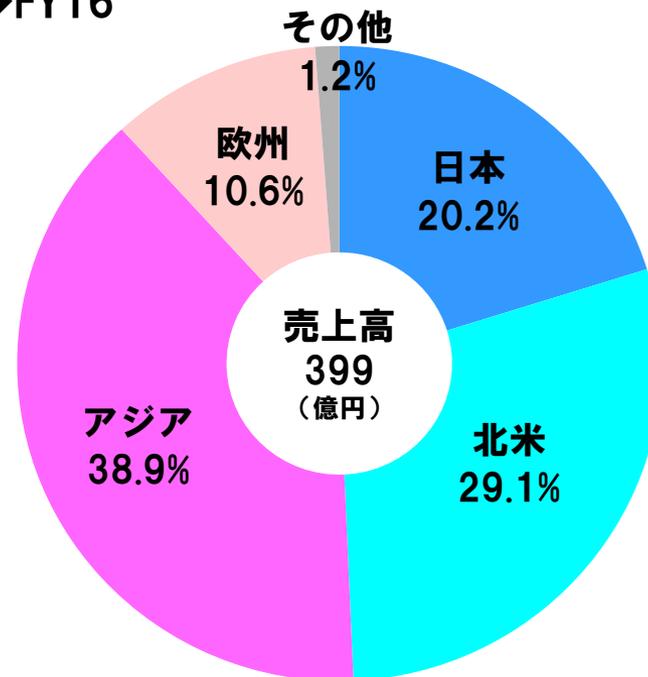
[アジア]

中国を中心にシネマ関連の販売が増加及び液晶関連装置の拡大

◆FY15



◆FY16



参考：自社株買いの状況

		金額	株数	期間
2015年度	実績	20.0億円	1,138千株	平成27年5月12日～ 平成27年6月10日
	実績	9.6億円	640千株	平成28年2月1日～ 平成28年4月8日
2016年度	実績	8.6億円	670千株	平成28年5月12日～ 平成28年6月13日
	公表	20.0億円	1,500千株	平成28年8月1日～ 平成29年2月28日

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
（03）5657-1007
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>